

要 約

報告番号	甲 ㊦ 第	号	氏 名	荒 井 隆 秀
主 論 文 題 名 Prognostic value of liver dysfunction assessed by MELD-XI scoring system in patients undergoing transcatheter aortic valve implantation (経カテーテル的大動脈弁留置術施行患者におけるMELD-XIによる肝機能障害評価の有用性)				
(内容の要旨) 経カテーテル的大動脈弁留置術 (transcatheter aortic valve implantation: TAVI) 施行患者において、肝機能障害が予後に与える影響についての検討はこれまでほぼなされていない。もともと肝移植待機症例のリスクアセスメントに用いられるModel for End-stage Liver Disease eXcluding International normalized ratio (MELD-XI) scoreが、近年心臓外科手術後症例や急性心不全症例の予後予測など、様々な心疾患における予後予測に役立つとの報告がなされている。そこで本研究ではTAVI施行症例におけるMELD-XI scoreを用いた肝機能障害評価がTAVI施行患者の予後予測に有用であるか否かについて検討した。多施設レジストリーであるOptimized transCathEter vAlvular iNtervention (OCEAN-TAVI) レジストリーに登録されたTAVIを施行した749例を対象とした。MELD-XI scoreは $11.76 \times \text{Ln}(\text{creatinine}) + 5.11 \times \text{Ln}(\text{total bilirubin}) + 9.44$ にて計算した。高MELD-XI群 (>10) と低MELD-XI群 (≤ 10) の2群に分けて比較検討を行った。平均年齢は高MELD-XI群84.6歳、低MELD-XI群84.2歳で有意差はなかった。高MELD-XI群で術後ischemic strokeの頻度 (5.1% vs 1.5%, $p < 0.01$) およびlife-threatening bleedingの頻度 (11.0% vs 5.9%, $p = 0.03$) が低MELD-XI群より有意に多かった。30日生存率は高MELD-XI群95.6%、低MELD-XI群98.5%であり、高MELD-XI群では30日生存率がMELD-XI群と比較して有意に低かった ($p = 0.03$)。Kaplan-Meier解析にて、6ヶ月生存も高MELD-XI群では低MELD-XI群と比較して有意に低いことが明らかとなった (86.1% vs 95.9%, $p < 0.01$)。Multivariate Cox解析にて、MELD-XI scoreが独立した予後予測因子であることが示された。Receiver operating characteristic解析にてMELD-XI scoreが既存のリスクスコアである、STS score、Logistic EuroSCORE、EuroSCORE IIより予後予測の精度が高いことが示された。 以上の結果より、MELD-XI scoreはTAVI施行患者の予後予測に有用であることが示唆された。				